

雪嶺集

〈宮坂静生鑑〉

鯨

小林貴子



ふいに立つ潮の香り節料理
お降りや腕さすり血を通はする
お降りやチーズフォンデュが伸びに伸び
獅子舞や向う進めばこちら退き
福藁や人の言葉がじわと胸
藁盒子三六〇度が山で
育ちすぎ撓み初めたり霜柱
ふはふはとここまで生きて初音笛
鷹匠の腕差し出せば止り木に
大阪や迷ひ鯨の処遇法